

目次



導入編

はじめに	2
------------	---

制度編

医療のはなし	4
--------------	---

Ⅰ どこで医療を受けるか	4
Ⅱ 医療にかかる費用と負担	5
Ⅲ 公的医療保険制度	6
Ⅳ 入院中の別途費用	12
Ⅴ 在宅医療の別途費用	13

介護のはなし	14
--------------	----

Ⅰ 介護が必要になるとき	14
Ⅱ どこで介護を受けるか	15
Ⅲ 介護にかかる費用と負担	18
Ⅳ 公的介護保険制度	19
Ⅴ その他の費用	23
Ⅵ 介護費用の軽減制度	25
Ⅶ 介護が受けられる高齢者住宅・施設	27

医療と介護のお金の負担軽減	28
---------------------	----

Ⅰ 高額医療・高額介護合算療養費制度	28
Ⅱ 医療費控除	29

事例編

医療	30
----------	----

事例① 肺がん	事例② 胃がん
事例③ 大腸がん	事例④ 乳がん
事例⑤ 子宮がん	事例⑥ 白血病
事例⑦ 前立腺がん	事例⑧ 心臓病(狭心症)
事例⑨ 心臓病(心筋梗塞)	事例⑩ 脳卒中(脳血管疾患)

介護	42
----------	----

ケース① 82歳 女性 要介護2 認知症で自宅介護
ケース② 78歳 男性 要介護4 脳卒中の後遺症で自宅介護 所得区分(一般)
ケース③ 76歳 女性 要介護1 サービス付き高齢者向け住宅に入居
ケース④ 85歳 男性 要介護4 介護付き有料老人ホームに入居
ケース⑤ 90歳 女性 要介護5 特別養護老人ホームに入居 所得区分:第3段階

データ編

医療と介護のデータ	48
-----------------	----

Ⅰ 自分は大丈夫だと思っていませんか?	Ⅱ わが身に降りかかる“突然”
Ⅲ 予想以上にかかる入院費用	Ⅳ 「怖い」「多い」「長い」「高い」—生活習慣病
Ⅴ がん-恐れるよりも備えること	Ⅵ 元気で長生き、女性の理想です
Ⅶ 年齢を問わないリスク	Ⅶ 先進医療のデータ
Ⅷ 介護や手助けを要する人の状況	Ⅷ 要介護者は増えています
Ⅷ 介護に対する意識と実情	Ⅷ 周囲にかかる人的負担、経済的負担



制度編 医療のはなし

I どこで医療を受けるか

医師や看護師などの診察や治療を受けるときには、病院やクリニックなどの医療機関に行く方法と、自宅等に來てもらふ方法があります。

1. 医療機関で医療を受ける

医療機関は大きく、一般病床 200 床以上の大病院と、それ未満の規模の中小病院や診療所に分けられます。医療制度改革では、高度な医療を提供する大病院と、身近なかかりつけ医として回復期や慢性期、終末期の医療や、風邪などの軽い症状の病気治療を担う中小病院や診療所クリニックとの、役割分担を明確にしてきたという流れがあります。

そのため、大病院は原則として他の医療機関からの紹介制を取っています。紹介状を持たずに受診する患者には、初診料や再診料に料金を上乗せして請求します。この上乗せ部分は、全額自己負担になります。



2. 自宅等で医療を受ける

医療が必要な高齢者が、病院ではなく自宅や高齢者向け住宅などで安心して住み続けられるように、厚生労働省では在宅医療を推進しています。医療機関に行くことが難しい高齢者などが、自宅等で医師や看護師から、診察や注射や透析などの治療を受けることができます。

不定期な「往診」と計画的な「訪問診療」があり、2006年と2008年の診療報酬改定では、24時間365日体制で訪問診療や訪問看護を行う「在宅療養支援診療所(病院)」が制度化されています。また、ここ数年は、病院以外でのターミナルケアや看取りが強化されています。



事例

①

肺がん

	全体	男性	女性
入院日数 (平均)	34.9日	40.3日	23.0日
外来日数 (平均)	12.0日	12.5日	11.1日

自己負担額 (X) + (Y)

66.8万円

健康保険対象医療費 (平均額)

入院 **222.5万円** 外来 **48.3万円**

(Y)

※外来時の自己負担分 **48.3万円** × 30% = **14.5万円** を含む。

事例：Aさんは肺がんにより35日間入院しました。
その入院にかかった費用の概算は次の通りです。



医療費	1カ月目	2カ月目	合計
入院日数	20日	15日	
健康保険対象医療費	127.1万円	95.4万円	
3割自己負担額	38.1万円	28.6万円	Ⓐ 66.7万円

高額療養費	1カ月目	2カ月目	合計
自己負担限度額	9.0万円	8.7万円	
高額療養費	29.1万円	19.9万円	Ⓑ 49.0万円

その他費用	1カ月目	2カ月目	合計
食事自己負担	2.5万円 (55回)	2.0万円 (43回)	
室料 (差額ベッド代)	12.2万円	9.2万円	
雑費	5.0万円	3.8万円	
小計	19.7万円	14.9万円	Ⓒ 34.6万円

自己負担合計 (Ⓐ - Ⓑ + Ⓒ) (X) 52.3万円

参考：肺がんで入院している患者が併発している疾病の例

- ・本態性高血圧
- ・糖尿病
- ・胃潰瘍
- ・睡眠障害
- ・胃食道逆流症



事例編 介護



ケース④

85歳 男性 要介護4 介護付き有料老人ホームに入居

心臓バイパス手術の後、体力の低下とともに歩行が困難になり、生活のほとんどに介助が必要な状態になる。妻には軽い認知症の症状があり、退院後は自宅での療養が難しいことから、介護付有料老人ホームに入居している。ホームでは、移動や排泄の介助、入浴介助その他の生活援助を受けている。月1~2回の通院時には、ホームの職員に付き添いを頼んでいる。

1週間のスケジュール

	月	火	水	木	金	土	日
午前	洗面介助・排泄介助・更衣 →						
	食事介助（移動） →						
	排泄介助・体位変換 →						
午後	食事介助（移動） →						
	排泄介助・入浴介助 →						
	食事介助（移動） →						
夜間	排泄介助・更衣 →						

介護サービス

特定施設入所者生活介護（30日分）（加算含む）	222,500円
限度額内の自己負担（1割）	22,250円…㉠
その他の支援サービス費用（ホームへ支払い）	
病院への付き添い費用、その他家事援助など	18,000円…㉡

食費・居住費

家賃（85,000円）+管理費（50,000円）	135,000円
食費 2,100円×30日	63,000円
小計	198,000円…㉢
雑費（おむつ代、理美容代、イベント費など）	15,000円…㉣
介護関係負担額	253,250円（㉠㉡㉢㉣）
医療費（診療費、薬代など）	5,000円
合計	258,250円

★別途入居一時金として、800万円支払い済み



データ編

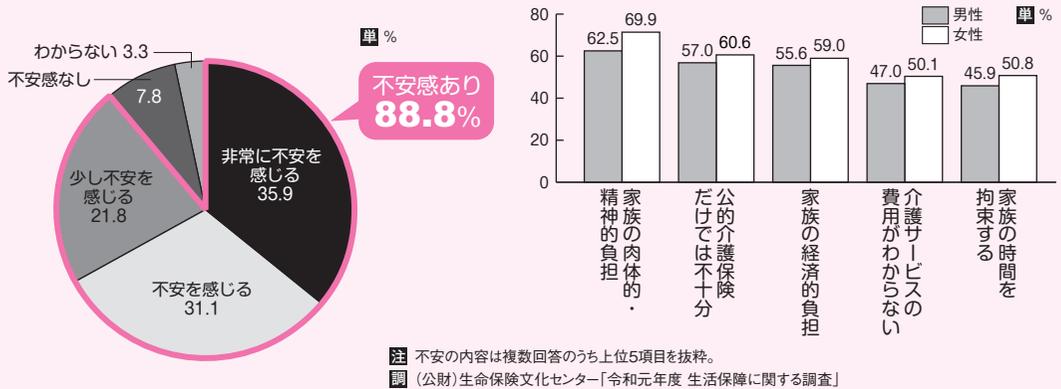
XI 介護に対する意識と実情



約9割の人が「不安感あり」

自分の介護に対して「非常に不安を感じる」と「不安を感じる」を合わせると全体の7割強で、「少し不安を感じる」人も合わせると、9割近くの人が不安感を持っていることになります。不安の内容は、「家族の肉体的・精神的負担」「公的介護保険だけでは不十分」「家族の経済的負担」などが上位にあがっています。

DATA 1 自分の介護に対する不安の有無と内容



7割強が「不安である」

世帯主が就労不能となった場合に必要な生活資金に対する、経済的備えについて不安に思っている人は、7割強となっています。また、世帯主が就労不能となった場合に必要な1ヵ月あたりの生活資金は、平均で28.0万円となっています。

DATA 2 世帯主が就労不能となった場合に必要な生活資金に対する経済的備えと必要な生活資金

